

## 野球は男だけのモノではない ～女子野球の現状と展望～

東海林 晃平

日本における野球の歴史は長く、一説では 1872 年頃からと言われている。それから約 140 年間、日本の野球では続々とスター選手が誕生し、どの時代でも国民を盛り上げていた。小学生から大人まで幅広い年代で野球がプレーされており、なかでも高校野球は高い人気を誇っている。2018 年の高校野球全国大会は、春は第 90 回大会、夏が第 100 回大会とどちらも記念大会が開催され、大阪桐蔭高等学校が春夏連覇を達成し、多くのメディアで取り上げられた。野球日本代表は 2006 年と 2009 年に WBC を連覇、2013 年と 2017 年はベスト 4 の成績を残している。日本の野球は人気、実力ともに世界でもトップクラスなのだが、ここまでの内容は男子野球に限ったことである。

野球も他のスポーツと同様に女子選手が活躍している。男子と同じように高校野球があり、プロ野球がある。さらには、小中学生やクラブチーム、軟式野球チームがあり、女子野球選手の人口は約 2 万人となっている。毎年、高校女子野球の日本一を決める全国高等学校女子硬式野球選手権大会や、プロアマ関わらず女子野球の日本一を決める女子野球ジャパンカップが開催されている。もちろん女子野球日本代表もあり、隔年で開催されている女子野球ワールドカップでは 6 連覇中である。

しかし、これら女子野球の話題についてメディアが取り上げることはほとんどなく、女子野球に対する世間の関心度は低い。日本は男女ともに世界ランキング上位であるにも関わらず、野球の環境や世間の関心度などで男女間の差を感じる点が多くある。私自身も女子野球については、一野球ファンとして女子野球の現状を日本や世界、プロアマ問わず知っておくべきだと思うようになった。そこで、この論文では第 2 章から野球の歴史について、第 3 章には女子野球の現状、第 4 章ではサッカーなどのその他女子スポーツについて、第 5 章で女子野球の展望について論じた。本研究を通じて、女子野球の良さに気付いたので、多くの方にその魅力を知ってもらいたいと考えている。